



多くの人に支えられて

第15代校長 吉田正子

初めて赴任した学校は、すっかり草木が生い茂り、この地に学校が在ったという記念碑がぼつんと建っている。

新任教頭として赴任した学校は、現在二つの小学校が統合されている。

最後に、校長として勤務した地元、坂野中学校も時代の趨勢で、まもなく立江中学校と統合されることになった。少子化によって、学校が減少することにより一抹の寂しさを感じる。

しかし、真新しい校舎、最新の施設・設備、新しい友達と共に気分一新し、教育を受けることができることは、誠に喜ばしいことである。

大規模校の小松島中学校、教育熱心な立江中学校、質実剛健の坂野中学校と言われて、それぞれの特性を生かし、総合体育大会・音楽祭・弁論大会等に切磋琢磨してきた。坂野校区周辺のマラソン大会は、退職後も走る姿や声援を見聞きし、なつかしい行事の一つである。

今年の夏の暑さに対して、熱中症に気をつけながら過ごすとき、思い出すのは、8月末のPTAによる奉仕活動である。早朝からノコギリ鎌など持参で駆けつけて、黙々と作業をしてくださり、見違えるように美しい校庭になりとてもありがたいことでした。

また、校舎の前の長い花壇を、お二人のボランティアによって手入れしてくださり、生徒たちも教職員も、美しい花々に心が癒やされました。

先生方は、地域や保護者の方々の声援を背に受けて、持て余し気味のエネルギーをマイナスの方向に発散しようとする生徒に対して辛抱強く寄り添ってくれました。

進路指導・高校入試に際しては、深夜に及ぶ作業もあり、精神的にも肉体的にも大変なご苦勞をおかけしました。

赴任して1年目、ある保護者から子供に「校長先生は？」と尋ねると、「草を抜っきよる」の同じ返事が返ってきますと心配していただきました。草を抜く時間があるのは、学校が平穏だからと、笑いながら答えました。また、「校長から笑顔が消えた」と言う生徒のことも知りました。生徒たちは敏感に見ていることに気づかされ、はっとしました。「草抜き」と「笑顔」を続けられる学校にと願いました。現実に厳しいものがありました。

退職後、山歩きを始めました。青い空、深い緑の山々、白い雪渓、清らかな流れ、吹き乱れるお花畑の花々は、ちっぽけな心や悩みを吹き飛ばしてくれるものです。人生も登山も小さな一歩の積み重ねから始まるのです。これからの社会がどう変わろうとも、大きな夢を持ち、粘り強い日々の努力と精進を祈ります。若い皆さんの一歩前進に期待し、エールを送ります。